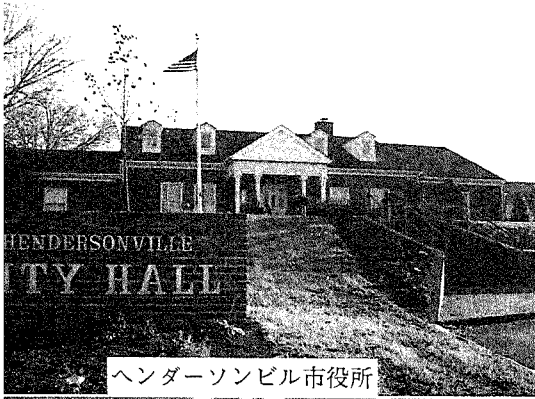


都留市公式訪問団 ヘンダーソンビル市を訪問

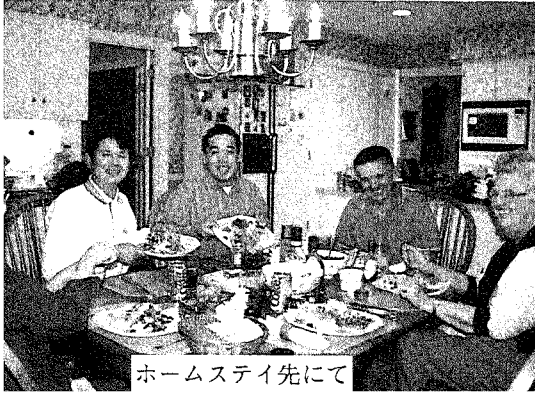
テネシー州のヘンダーソンビル市と姉妹都市を提携し十七年目を迎えた今年、四年に一度の公式訪問団を十一月四日から九日間の日程で派遣しました。

今回の訪問団は、小林市長を始め市議会議員、青年会議所、都留・ヘンダーソンビル友好委員会会員に一般公募で参加した四名が加わり、総勢十六名のメンバーで結成されました。

既に公式訪問団としては、姉妹都市の提携調印時の派遣を含め五回目の訪問となり、友情の絆はさらに強固なものとなりました。特に今回の訪問団の団長をつとめた澤田友好委員会会長は、姉妹都市を結ぶ前から合唱を通じ親交を深めていたため、今回で五回目の訪問となり、まさにヘンダーソンビル市は第二の故郷といった思いのようです。



ヘンダーソンビル市役所



ホームステイ先にて

Study

ここで今までの交流を簡単に振り返ってみましょう

調印までの足跡

交流のきっかけとなったのは、昭和五十四年七月、テネシー文化使節団が都留市で公演した時にさかのぼります。

この使節団は日本各地で親善演奏会を行い、たまたま都留市での公演の際、訪問したメンバーが本市へホームステイしたことで親交が深まり、都留市の自然や街がヘンダーソンビル市と似たところがあったことも手伝って、姉妹都市としての気運が一気に加速し、昭和五十八年五月ヘンダーソンビル市で姉妹都市の提携調印となりました。

その後は皆さんもご承知のとおり、年を追うごとに民間レベルでの交流が盛んになっていきます。

盛んな交流

昭和六十二年には、青年会議所の事業として「ちびっこ海外使節団」がはじめてヘンダーソンビル市を訪れました。

子ども達が将来国際社会でも通用するような人間形成づくりを目指す事業として、今でも五年に一度実施しています。

また、平成二年には桂高校がヘンダーソンビル高校・ビーチ高校の二校と国際姉妹校の提携調印を交わしました。

主な交流は、毎年二名の長期留学生を、五カ月間ヘンダーソンビル・ビーチそれぞれの高校へ留学させ、語学力の向上を目指すとともに、日本では経験できない授業も取り入れながら、留学生を送っています。

さらに三年に一度、短期留学生を二十名から三十名、半月程度留学させており、今や長期留学と合わせ、生徒たちにとっては興味深い事業の一つとなっています。



「板倉さん」のスピーチ

長期留学生「池田さん」

八月から五カ月の予定で桂高校から留学しているお二人が、歓迎会と送別会に顔を見せてくれました。

われわれ訪問団一行は、元気な様子の二人を見て安心すると同時に、英語が話せる二人がいてくれることに安堵の思いをいただきました。

二人は、日本語と英語の両方でスピーチを行い、三カ月余りの留学で身につけた語学力の成果が早くも発揮され、想像以上にたくましく見えました。「かわいい子には旅をさせろ」二人を見て、改めてこの言葉が身にしみて分かった瞬間でもありました。

送別会では、コミュニケーションがうまくとれないテーブルに向き、通訳をかって出るなど大変な活躍をしてくれました。